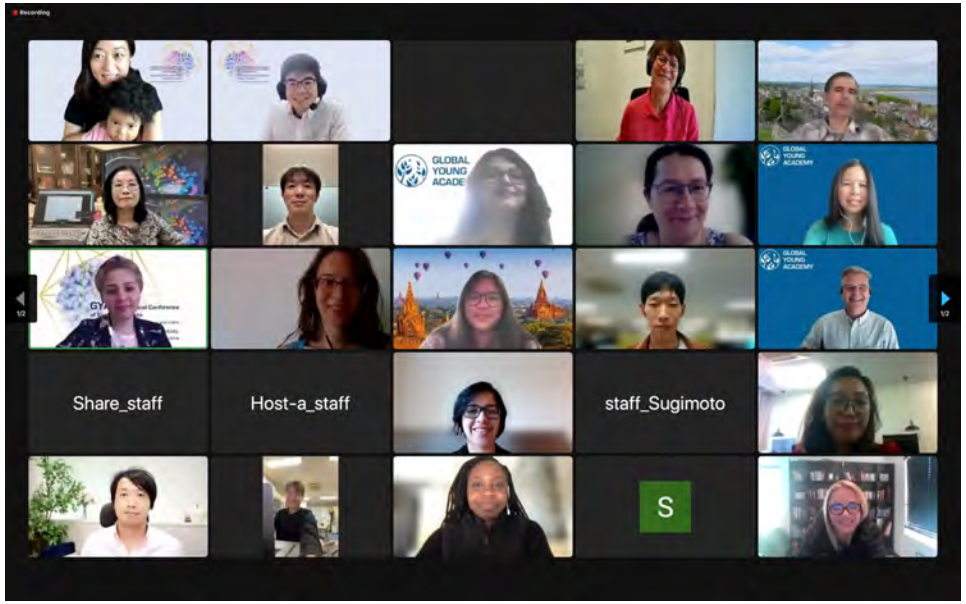
第12回Global Young Academy総会・学会

下記の通り、国際会議を開催いたしました。

- 会期：2022年6月12日～17日
- 場所：九州大学椎木講堂及び
  生物多様性保存ゾーン/オンライン
- テーマ：感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生
  (Harmonising reason with sensibility: Regenerating science for an inclusive and sustainable future
- 参加者数：791人（80カ国）



協賛・後援・広告・寄付金情報

協賛	日本政府観光局
後援	外務省 文部科学省 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 公益社団法人 日本看護科学学会 一般社団法人 日本生態学会 公益社団法人 日本化学会 公益社団法人 高分子学会 筑波会議委員会 日本科学振興協会 (JAAS) **一般社団法人 日本DNA多型学会** 公益社団法人 日本心理学会 日本ベントス学会

本会議は、一部、JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」の支援を受けて実施しております。

日程

	Day 3 12月13日(月)	Day 4 12月14日(火)	Day 5 12月15日(水)	Day 6 12月16日(木)	Day 7 12月17日(金)
午後	市民公開講座	英語ディベート	SFプロトタイピング	SFプロトタイピング	サイドイベント
夕方	科学的助言ワークショップ	開会式	Panel 1	Workshop	声明文発表
夜間	科学的助言ワークショップ	GYA紹介	Plenary 1	Plenary 2	閉会式
	GYA新メンバー入会式	GYA総会	総会	総会	
		総会	総会	総会	

多彩なサイドプロジェクト

- 公開講座「創造する未来と科学の可能性 –さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう–」
- サイドイベント「高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ」
- サイドイベント「若手世代で考える30年後の社会：SF プロトタイピングワークショップ」
- サイドイベント「若手研究者と次世代研究者の対話」
- アートプロジェクト：アートとサイエンスのコラボレーション

アートプロジェクト1. 植物の一年時計

（2023年７月現在、九州大学伊都キャンパスビッグオレンジ前にて観覧可能。）

このアートガーデンは九州大学にある「生物多様性保全ゾーン」に自生する在来種を中心に植栽されています。また、方角を明記し、日の出入り、北極星の位置など、星々と自分のつながりを感じるように設計されています。このガーデンは、修験道の曼荼羅のオマージュです。曼荼羅は、大いなる関係性の中で私たちが生かされていることを表現しています。**人々の心の中に、自然の循環や時間への想像力を喚起し、現在の植生を将来世代に伝えるものです。**

　春分、秋分の日は、真西に沈む夕陽をこのガーデンに立って眺めてほしいです。

（制作者）九州大学・知足美加子教授

作品紹介：https://youtu.be/u3F5ECliulc
詳細：http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/SeasonalFlowerClock.html

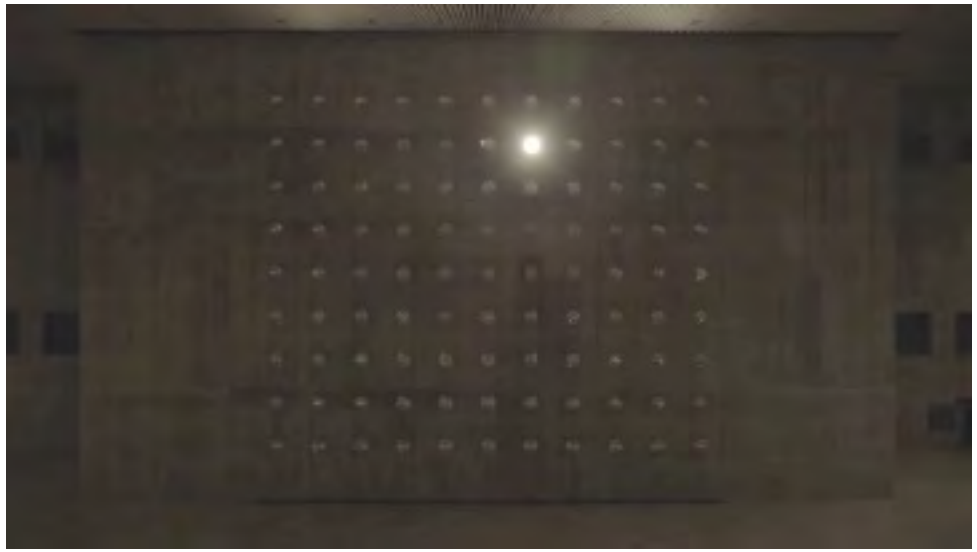
アートプロジェクト2. 大型展示作品
「0=1 -Discontinuous Continuity」

＊九州大学・椎木講堂のガレリア壁を全面活用した作品
（九大史上初の試み）

（現在、展示は終了しています。）

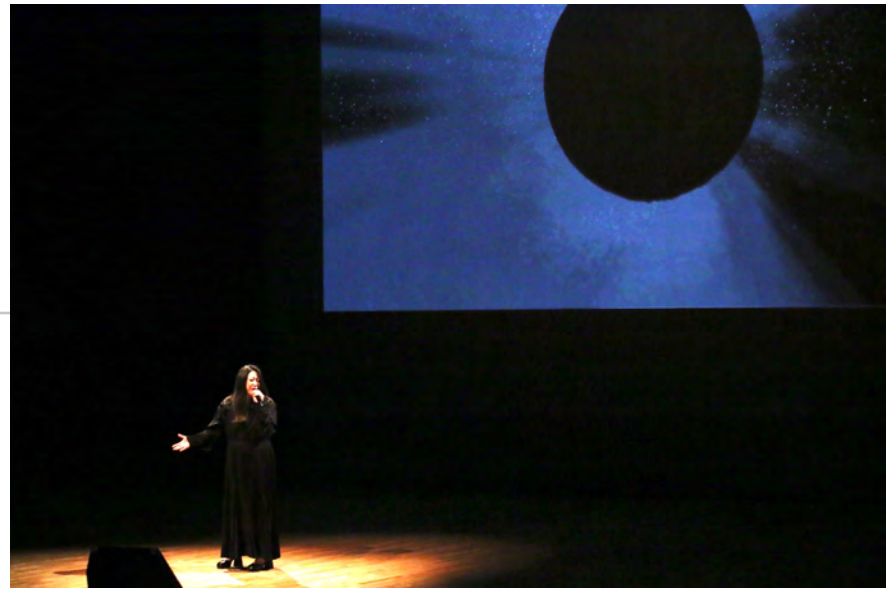
（制作者）
九州大学・
栗山 斉 准教授

99個の閃光電球が不規則なタイミングで一回きりの発光を繰り返す。これにより非連続の連続、「消滅」と「生成」を両義的に暗示する唯一無二の繰り返し、一回性の繰り返しを表現しています。



アートプロジェクト3.
音楽とデジタルアートの融合

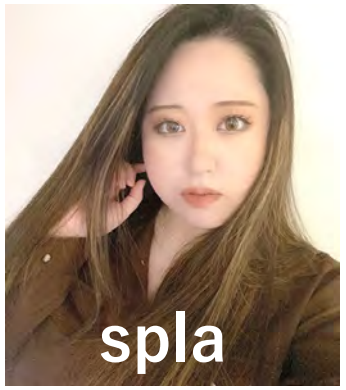
～人々や他の生物との共生・共存をテーマ



日本の音楽ユニットSeireN とロシアのメディアアーティストVlad Kononkov による、音楽と映像のコラボレーション作品。

（制作サイドのメッセージ）
この世界における人間の位置づけや、人と他の生物との関係性について、過去の過ちも振り返りながら、深く考えることの一助になるように、と制作しました。
たとえ距離や国境によって分断されていても、私たちは音楽、映像、感情を通してつながり、協力することができるのです。

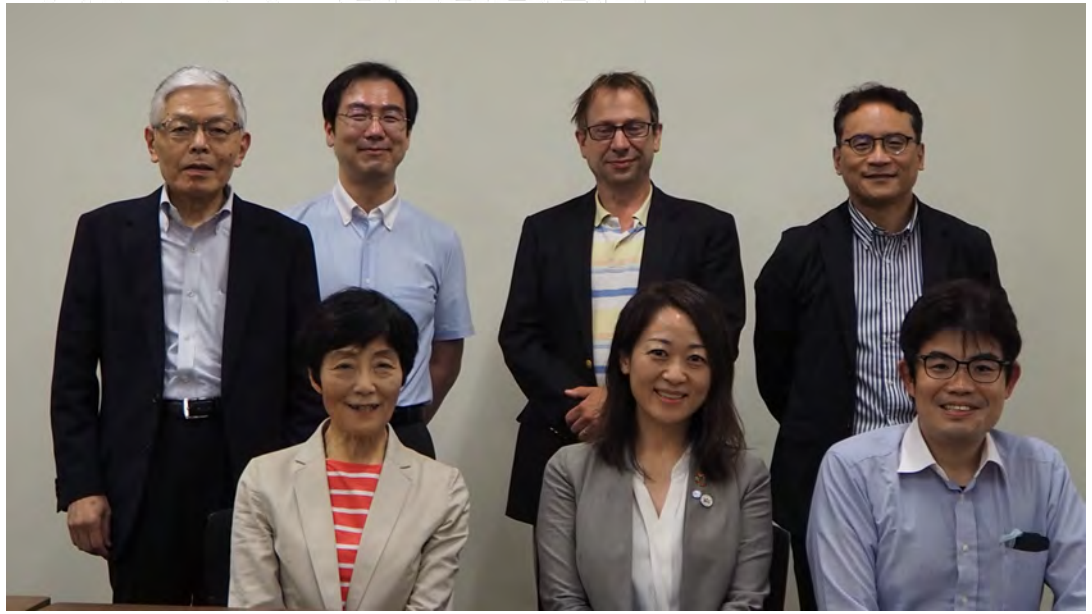
SeireN



Vlad Kononkov

SeireNによる楽曲はこちらからお楽しみいただけます。
1. オレンジが沈む頃に by spla https://youtu.be/u2N4-3CYRgs
2. Still ～ それでも by daich https://youtu.be/16OUrEMOIyk

科学的助言ワークショップ
「政策作成のための科学的助言：課題と今後の発展」



現地でメンターとしてグループワーク
に参加くださった先生方

メンター：Binyam Sisey Mendisu (Vice President of INGSA and GYA alumni, Ethiopia), Tateo Arimoto (GRIPS Japan and INGSA Board Member), Reiko Kuroda (Board member, INGSA-Asia), Yuval Vurgan (Knesset Research and Information Center), Mitsunobu Kano (Dean of Pharmacy Department, Okayama University), and Markus Prutsch (GYA member; European Parliament, Belgium)

Challenges:

- Misinformation through social media
- Science advice can be used with the wrong motive for political gain or for money making business.
- Scientists are not specialists in communication.
- The risk of using simpler language is, some information may lost.
- Sometimes maybe most of the time we don't have a clear answer for policymakers.

Opportunities:

- bring the community members in the scientific discussion to make the implementation better
- Global collaboration is really important: the ‘Global Young Academy’ as a platform of improving science advice.
- Japan is starting to open grants and this could be a slow but steady solution.

プレナリー1：社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方

山極 壽一 先生
（地球研所長）

歴史、人間、社会科学の研究と文化の共有の重要性について言及c

平田オリザ 先生
（芸術文化観光専門職大学学長）

共感するための対話の重要性を強調

坂井 猛 先生
（九州大学教授）

九大の新キャンパスづくりの思想（環境持続性）を共有

Connie Nshemereirwe
（GYA）

COVID-19後のアフリカの状況を共有

Michael Saliba
（GYA）
パネリスト

Anindita Bhadra（GYA）司会

大学ランキングの問題、MOOK時代における大学の役割、教育・研究における地域の多様性などについて議論

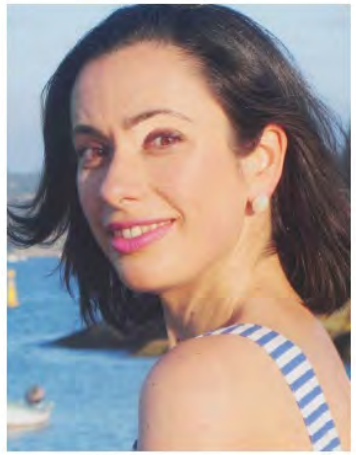
プレナリー2：科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する

Dennis Sherwood

Science Creativity, どのようにアイディアを形成するか

Sandra Lopez

Creativity, sensibilityの明文化の必要性



Cristina Blanco Sío-López

感性と理性のリバランスではなく、学び直し

Mitsunobu Kano
狩野 光伸

学際的研究の重要性について言及

Rob Jenkins

GYAメンバーのサーベイ結果を公表

モデレーター

Yoko Shimpuku
新福 洋子

GYAのメンバーとアルムナイがそのネットワークを活用し科学者同士の対話、また異なる立場の人々との対話を続ける必要がある

パネルセッション:
シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して

シチズンサイエンスは一般の市民によって行われる科学的活動であり、研究の民主化と言われるだけでなく、民主主義社会を強くする

岸村顕広
(九州大学 准教授)

提言の紹介とその後の日本国内の動きを紹介

Lissette Lorenz
(PhD candidate, Cornell University)

海外の事例を紹介し、コミュニティにおける科学者の役割と重要性を指摘

大上 麻海
(福岡大学 講師)

シチズンサイエンス研究センターの取り組み紹介

中村 征樹
(大阪大学 教授)
まとめ

乗竹 亮治
(日本医療政策機構 理事)
司会

科学者の定義、シチズンサイエンスの研究倫理、科学者と一般市民との相互信頼、シチズンサイエンス推進に向けた効果的な道筋などについて議論

Statement

Harmonising Reason with Sensibility for an Inclusive and Sustainable Future:

Fukuoka Declaration on Actions to Change the Relationship between Society and Science

共通の目標とは？

- それぞれの文脈で理性と感性をバランスよく確保し、科学と社会のより良い関係のために活用すること、それが以下を促進する：
  - 科学者、ステークホルダー、市民間の信頼関係の構築と強化
  - 意思決定者は、社会のための意思決定を行うために、科学的な情報を得ることができる。
  - 市民は、自分たちの問題を解決するために、ボトムアップのニーズを科学的プロセスに持ち込む。
  - 科学的創造性、好奇心、コミュニケーションに価値を見出す社会への変革

共通の目標を達成するためには？

- 科学を形式的にオープンにするだけでなく、実質的にアクセス可能で魅力的なものにすること
- 市民の知恵と科学的知識を統合し、社会のために役立てること
- 若手科学者を育成し、リーダーシップを発揮することと、そのような努力をする人を奨励し育成する仕組みの両方に取り組むこと

全文：http://globalyoungacademy.net/gya-releases-fukuoka-declaration-on-science-society-relationship/